

紅茶プランテーション農園における青年層を活用した 学童補習活性化（2018年～2021年）



紅茶農園の子供たちに教育の機会を！

■ 実施団体：

国立大学法人宇都宮大学 国際学部

■ 対象国・地域：

スリランカ国中央州ヌワラエリヤ県
ハットン・ディコヤ地域の
紅茶プランテーション農園3か所



■ 現地カウンターパート（および現地団体）

中央州教育局、現地NGO セワランカ

■ 協力内容：

- ・「放課後プログラム」の実施を通じた児童への教育機会の提供。
- ・プログラムを実施する青年指導員の育成や指導体制作り。
- ・教育の必要性について保護者や地域行政関係者への理解促進。

■ 団体のこれまでの取り組み：

国際学部・農学部で連携し、国際協力人材育成プログラムに取り組んでおり、2015年度にはスリランカでの海外研修を実施。

■ 事業実施の背景：

スリランカの紅茶プランテーション農園に居住するエステータタミル（イギリス植民地時代に労働者として連れてこられたタミル人）と呼ばれる人々は、社会・経済・文化的にも他の地域社会から隔絶されている。特に子供たちは、十分な教育を受けることが難しい。学校も農園内にあることから、農園外との接点も限られる傾向にあり、将来の選択肢も、単純労働などに限定されてしまっている。

スリランカの課題と成果

課題① 農園内に学校はあるが施設数や教員数が不足しており、農園内の子供たちは量・質共に学習の機会を得ることが難しい。

成果① 対象地域の児童たちのほぼ全員が放課後プログラムに継続参加。コロナ禍でのロックダウン中でも青年指導員が家庭訪問し、課題配布、指導を続けたことで、子供だけでなく、保護者に対して教育の必要性を伝えることができた。

課題② 教育の担い手不足

成果② 無職の青年を対象に、子どもに対する指導能力向上のための研修と実践の場を提供。研修を受け、実際に現場で活躍した青年指導員の中から、1名が小学校の臨時教員として採用！

事業の波及効果



コロナ禍に負けず、広がり、深まった 栃木の学生と現地の人々とのつながり

- ・実施団体として学生団体「UU-TEA（宇都宮大学学生広報委員会）」を立ち上げ。学生が自ら企画し現地と日本を繋ぐオンライン交流を実施するなど、学生の参加を促進。
- ・近隣の高校（佐野高校等）と現地とのオンライン交流会や、学生による継続的なインスタグラム等SNSを通じた発信、市民向け報告会の開催など、一般市民、特に若年層の国際協力への関心契機に貢献。